



魔法で男の子を

召喚して

まほうで
おとこのこを
しょうかんして
おかしらやおつ
けいかく

犯しちやおう計画

成人向けCG集 32P



召喚術で
「人間」を呼び出す
方法は
現代の魔女学校では
教えられていない。



かつて、この街で
生徒による
犯罪行為があったからうだ。

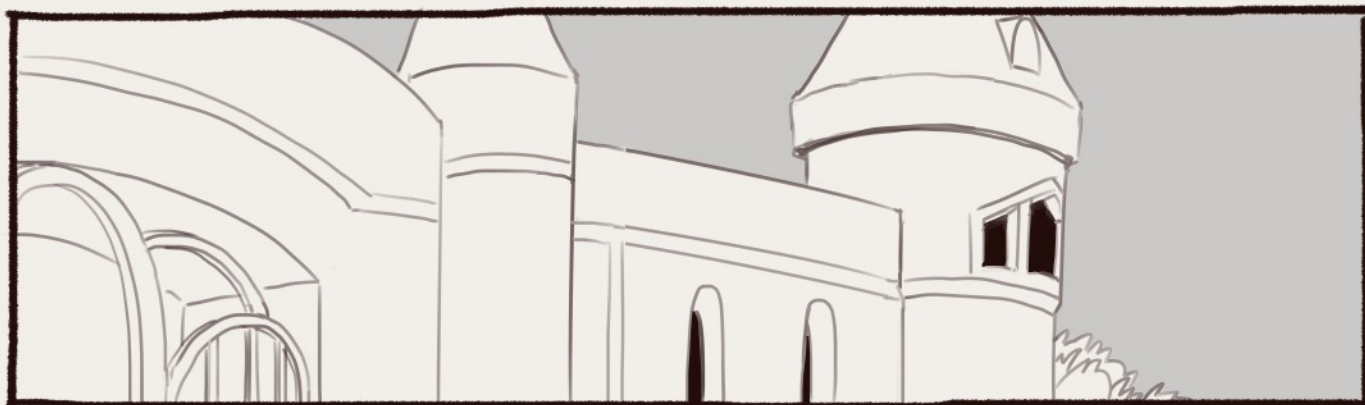
詳細は伏せられたが
噂によると生徒が召喚術で
人間の少年を召喚して
地下に何日も監禁し
そこで淫らな行為を
行っていたという。

許されざる卑劣な犯行……

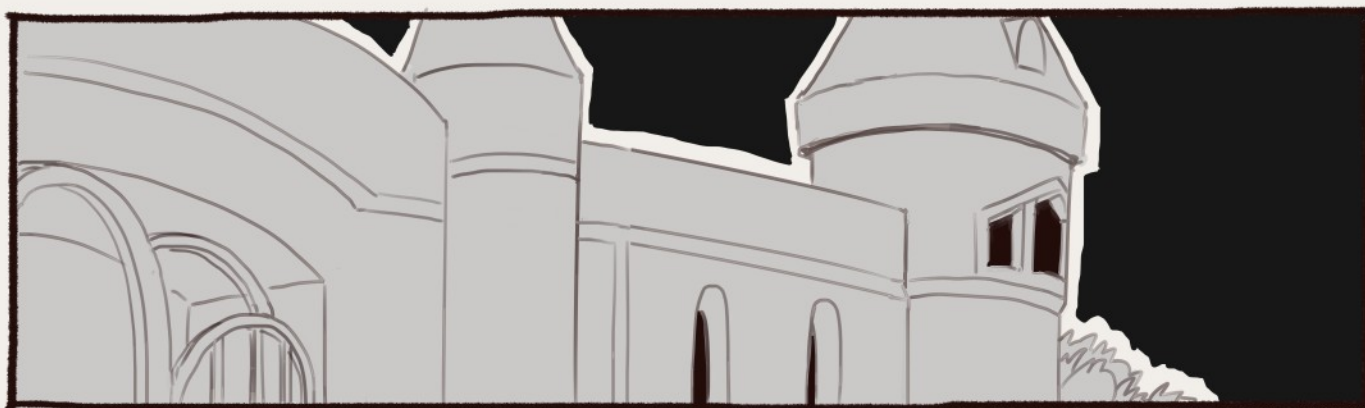
しかし、その話を聞いたとき私の心は
燭台の火のように妖しくゆらめいた。
羨ましいと思った。

男の子の体を好きにしたいと思った。
私はそれを自分が行うところを想像して
何度も何度もオナニーした。





ある夜。わたしは
実家の物置を整理していた。

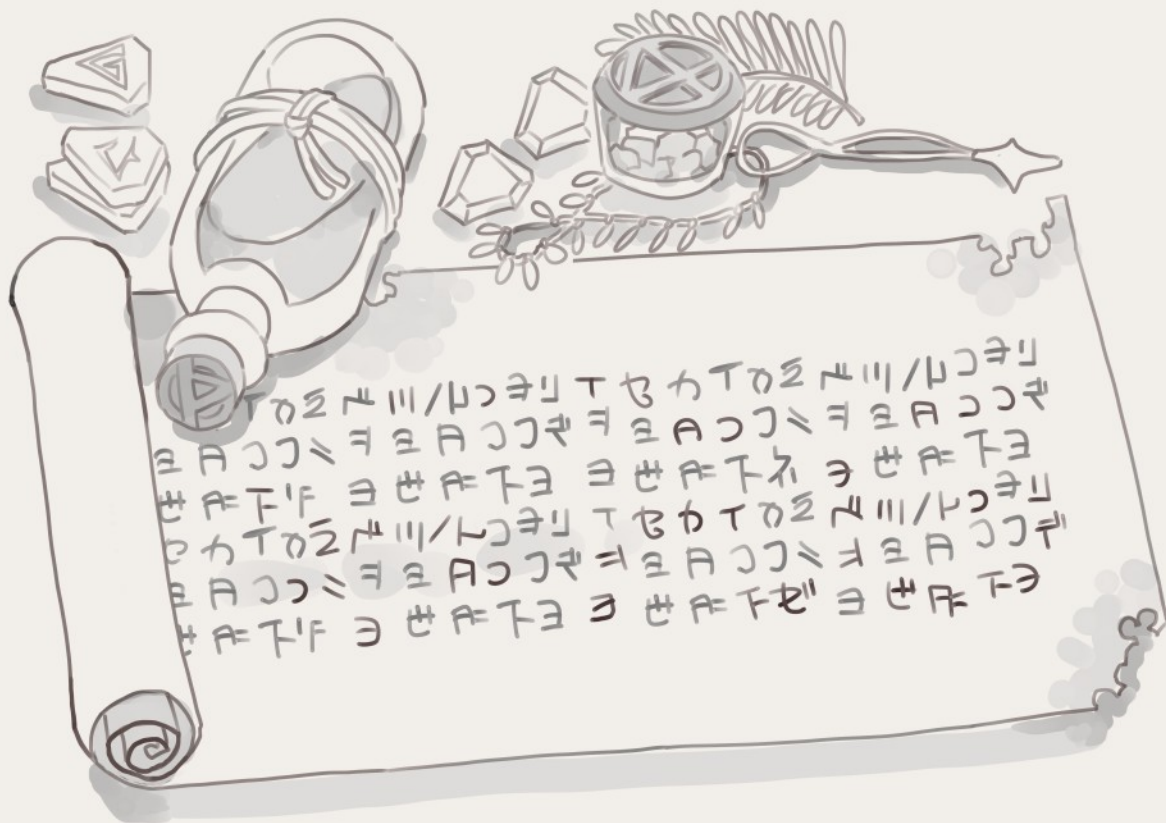


そしてそれを
見つけてしまった。



「異世界より人間を呼びだす召喚術」

古い^{スロール}巻物にはそう書かれている。
秘めておくべき願望が
錆びた車輪のように動き出した。





休日、私は同級生のアリシアを呼び出した。

「用事ってなんなの？？」

そしてゆっくりと
こう口にした。

「…………お…………男の子の
体って興味ある…………？」

これからやろうと
してること。

一人では怖かったから。

彼女は根暗な私の
唯一の友達だった。





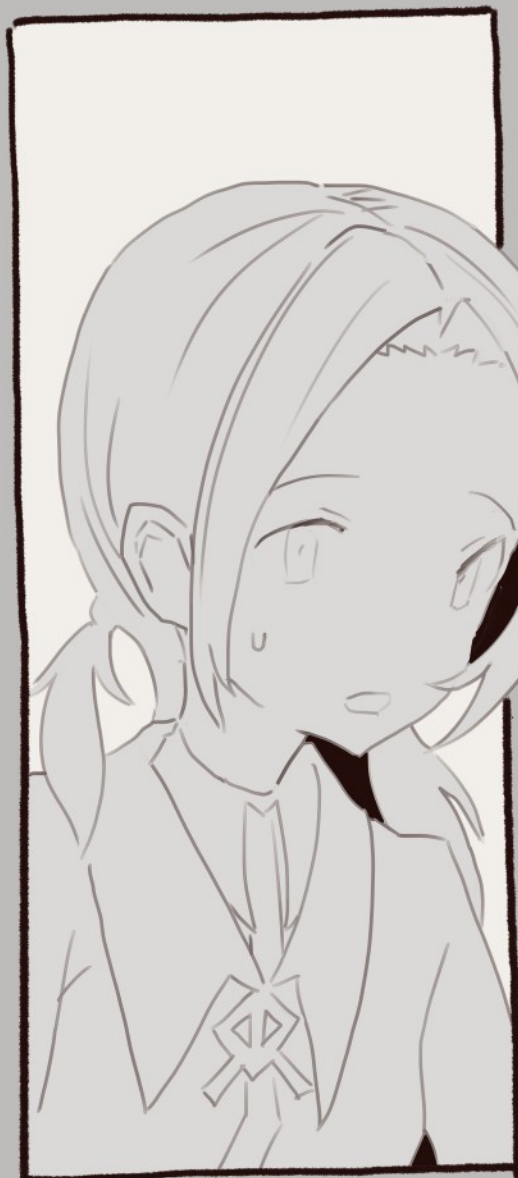
「い…異世界…の」

「…男の子」



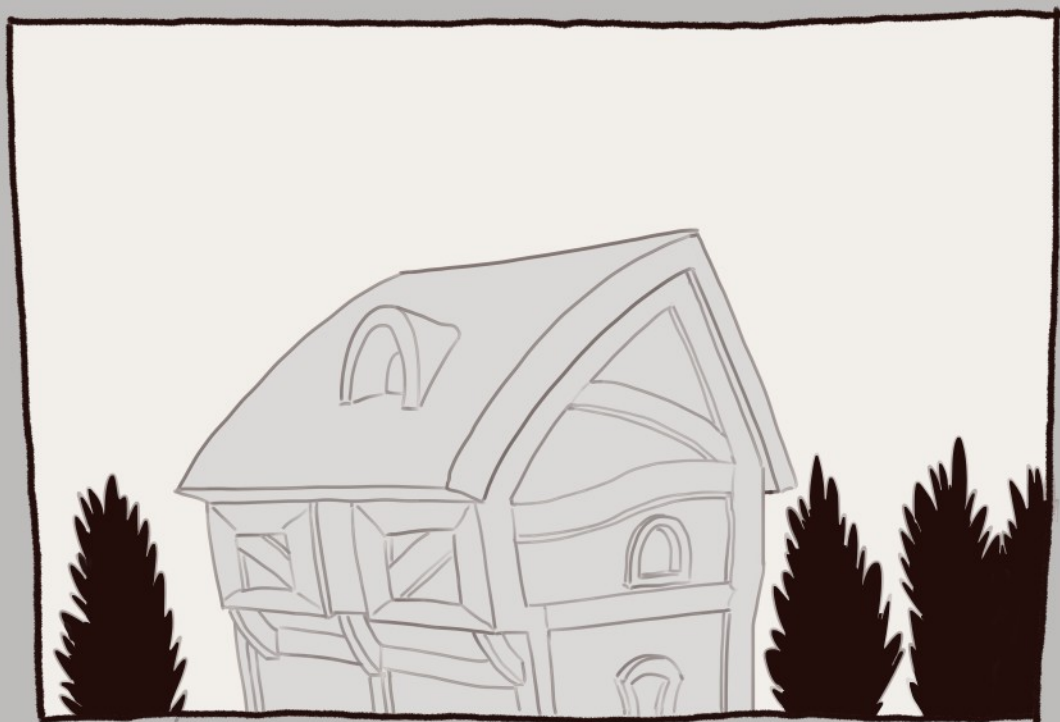
並べられた言葉は
犯罪行為への誘いだった。

「つかまえる……」





アリシアは確かにそう言った。



「……わたしもしたい」

その夜
私たちは二人で

校則を破った。



浮かび上がる文字が躍り
輝きが最高潮に達したとき
白い光の中に何か呼び寄せられた。
召喚術が成功したのだ。

巻物が消失し
魔法陣の中心から
ひとりの少年が現れる。

異世界とはどこなのだろうか。
貝慣れぬ服装をしていたが
それは確かに私たちの知る
人間の男の子だった。
私たちよりも幼く……
か弱そうな男の子だった。



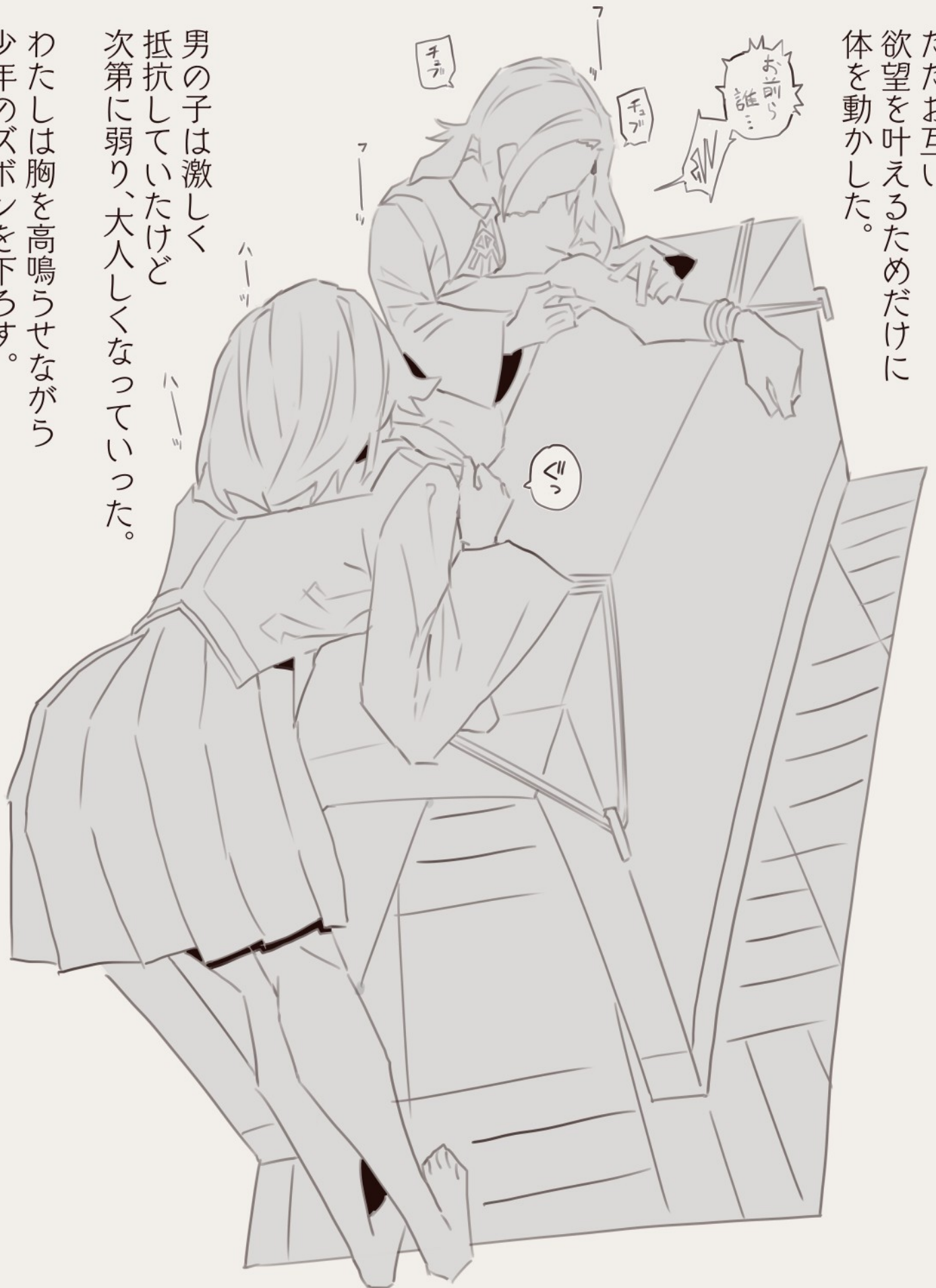


私たちは話し合った手順通りに
少年を捕縛した。

巻物によると
召喚は一時的な
もの………
良心を痛めたり
冷静になるような
暇などなかった。

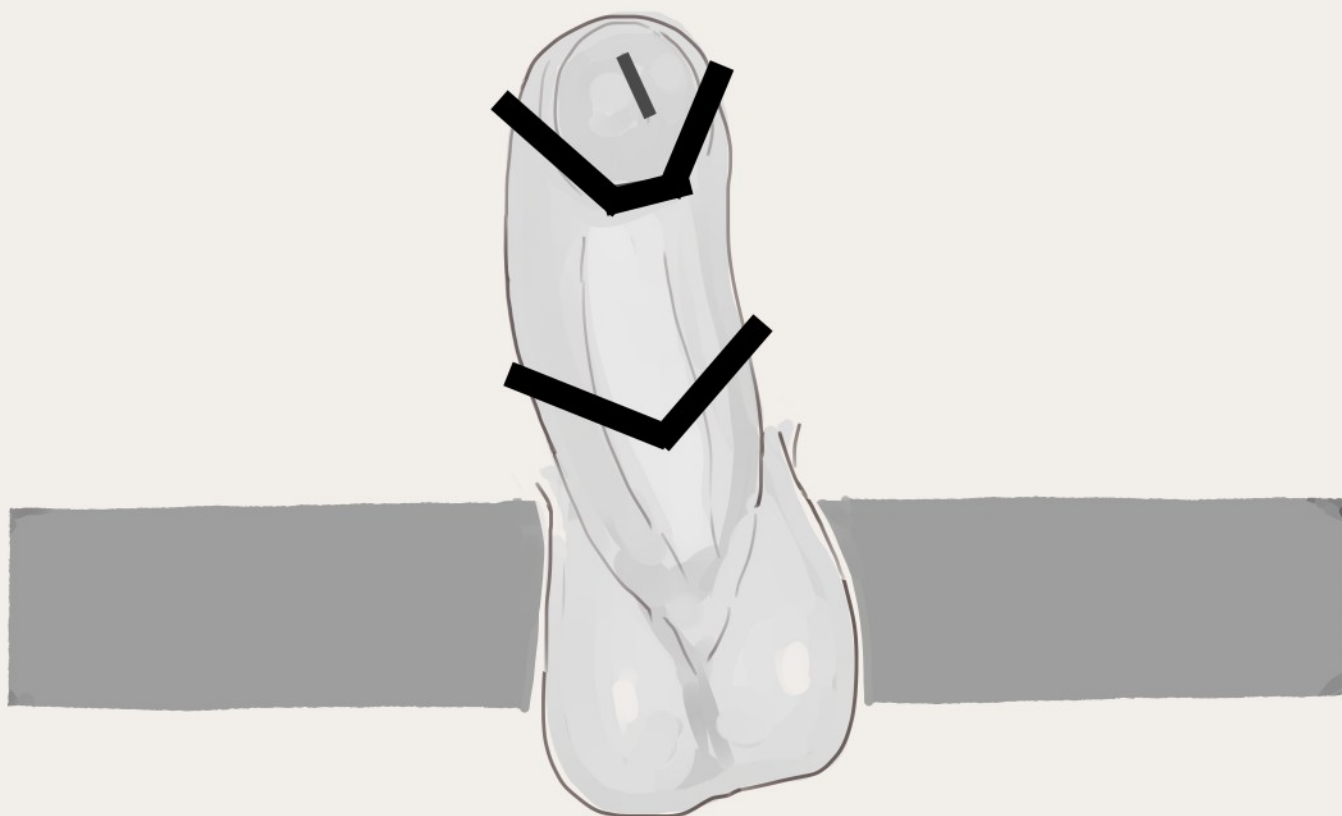


ただお互い
欲望を叶えるためだけに
体を動かした。



男の子は激しく
抵抗していたけど
次第に弱り、大人しくなっていた。

わたしは胸を高鳴らせながら
少年のズボンを下ろす。



これが……

男の子の……

ほっ



ほっ

ほっ



恥ずかしいとは少しも思わなかった。
一心不乱にちんちんにしゃぶりついた。

知らない家の衣服の匂いがする。
それに混じって男の子の匂いと味がする。



時々アリシアと目があったけど
私たちは会話すらしなかった。

ただ、自分が今どういう姿をしているのか
考えるのが怖かった。



私が黙々と捕食行為をしている間に
アリシアもまた
自らの欲望を満たし始めた。

股の隙間から時折
漏れる少年の吐息は苦しそうだった。

な
なめて...

又ア
クニ

.....

又ア

ナニ

ア

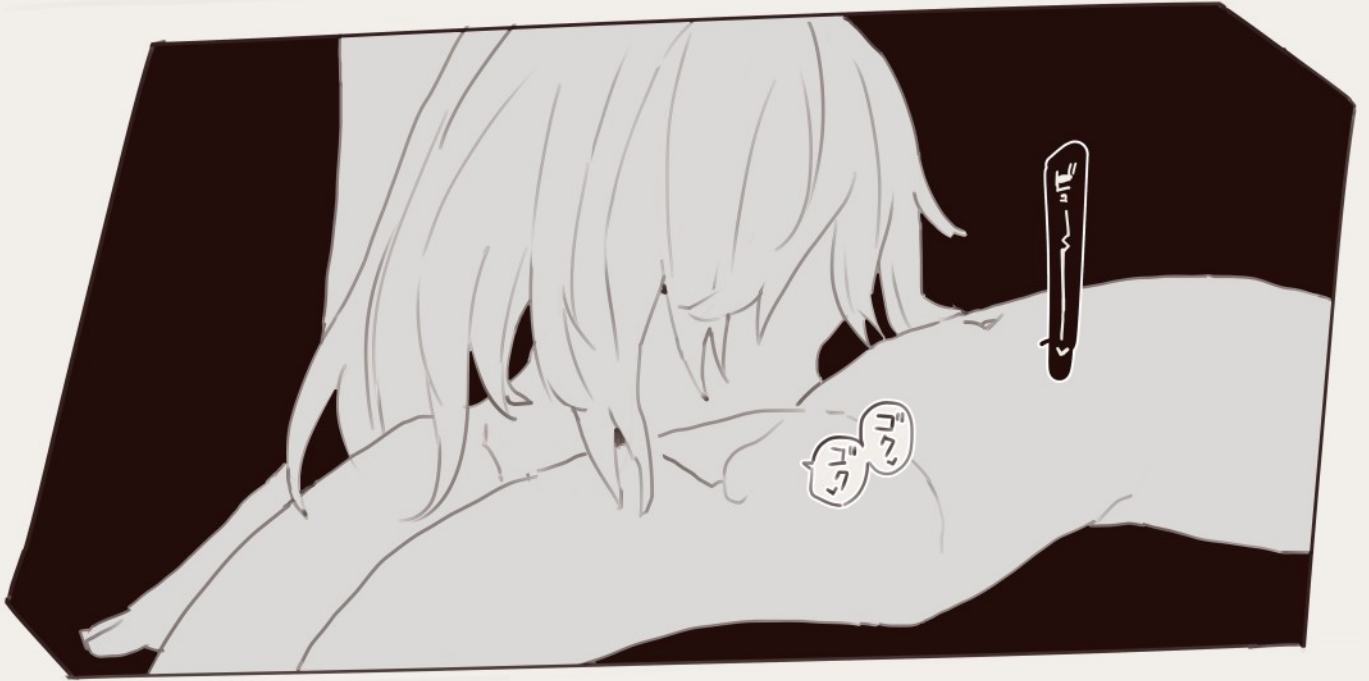
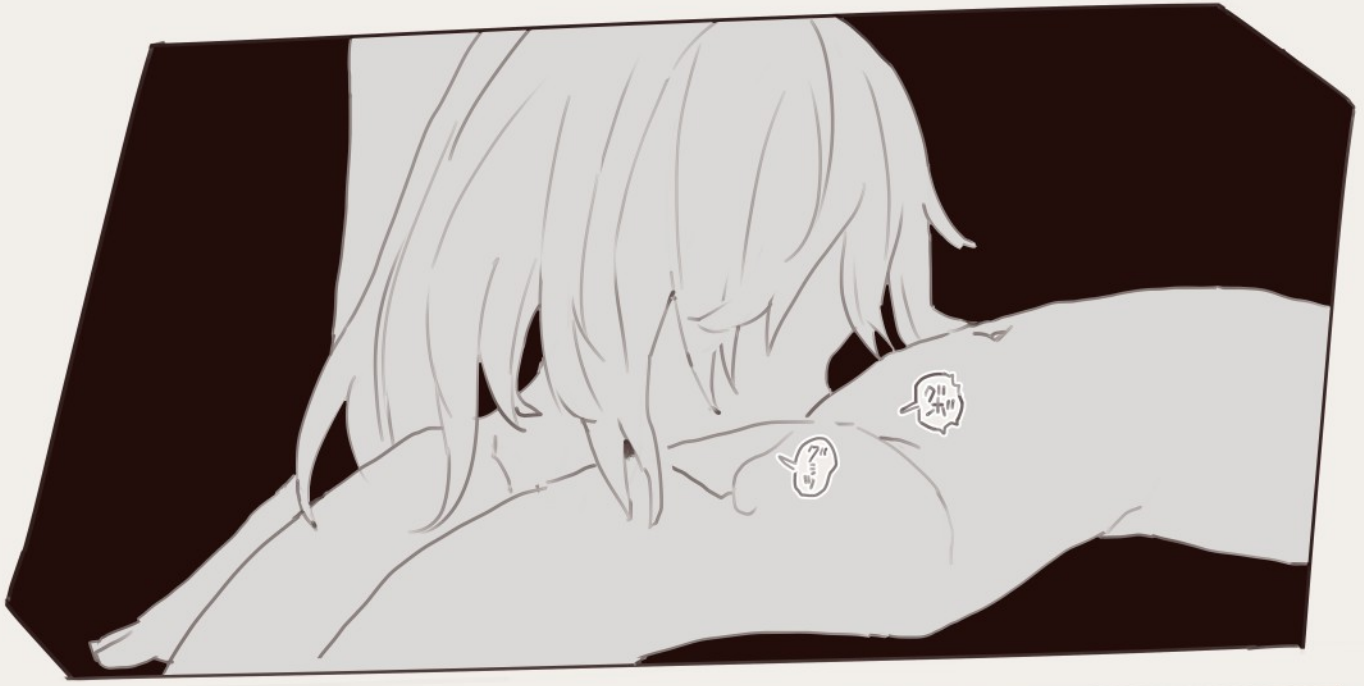
静かな宴だった。

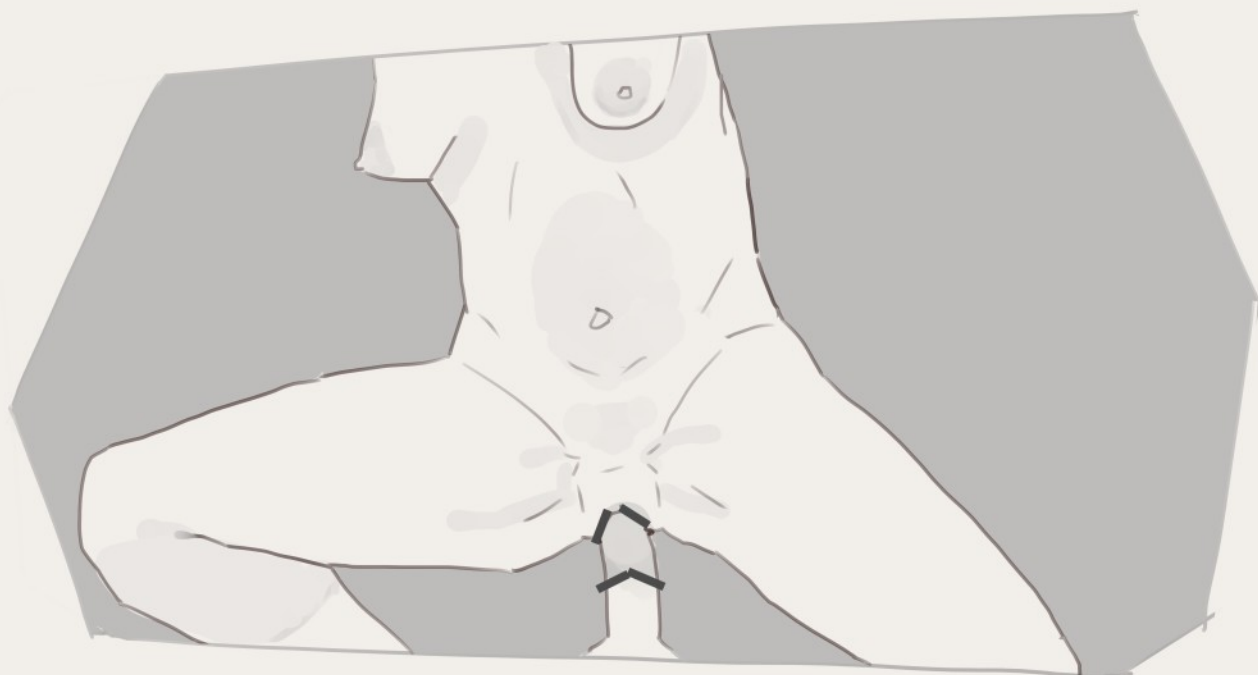
絢爛^{けんらん}さからはほど遠く

雨の日の蛞蝓^{ナメクジ}のような
湿気にまみれた肉欲の晚餐。









そして

私はこの子と
男女の契りを行った。

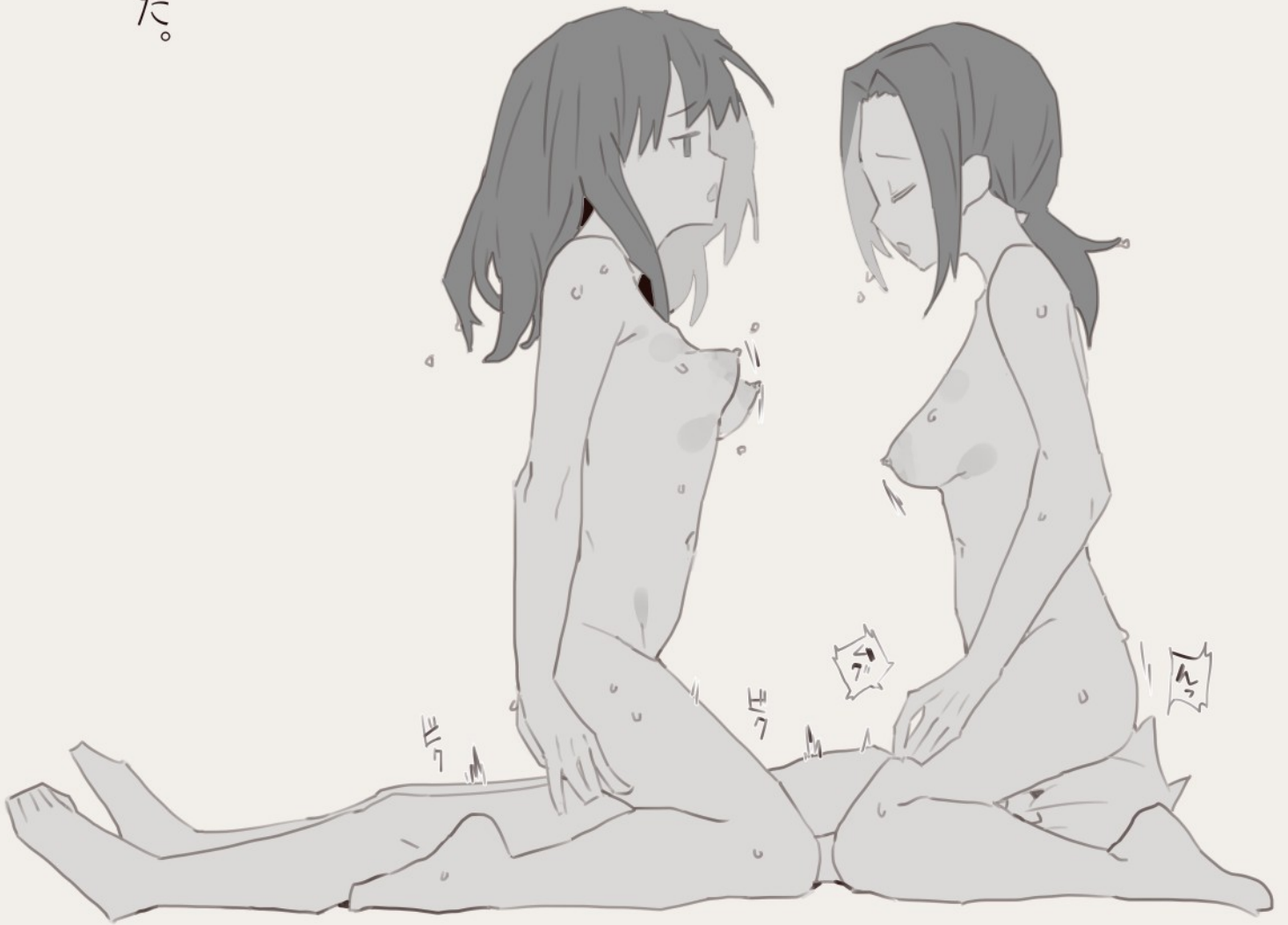




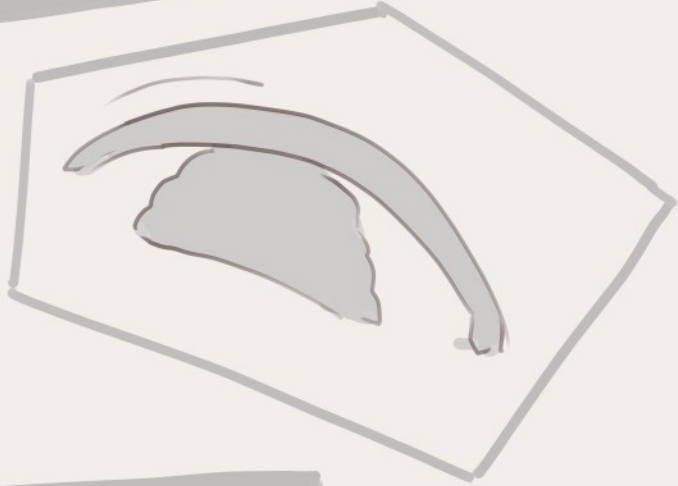
次第に
他のことが
頭に入らなくなった。
部屋の外の街も空も
私たち以外
何もない。
真っ白な原始の聖域。

私が
腰をすりつける度に
少年の体が
抗いようのない
快楽に弾む。
うめき声が
少しずつ大きくなる。

そして
私の股の中で今まさに
限界を迎えようとしていた。



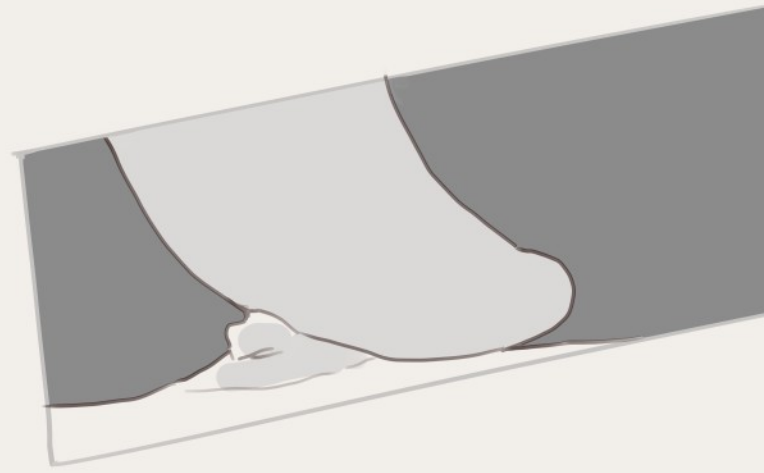




私たちの
暴走を止める者は

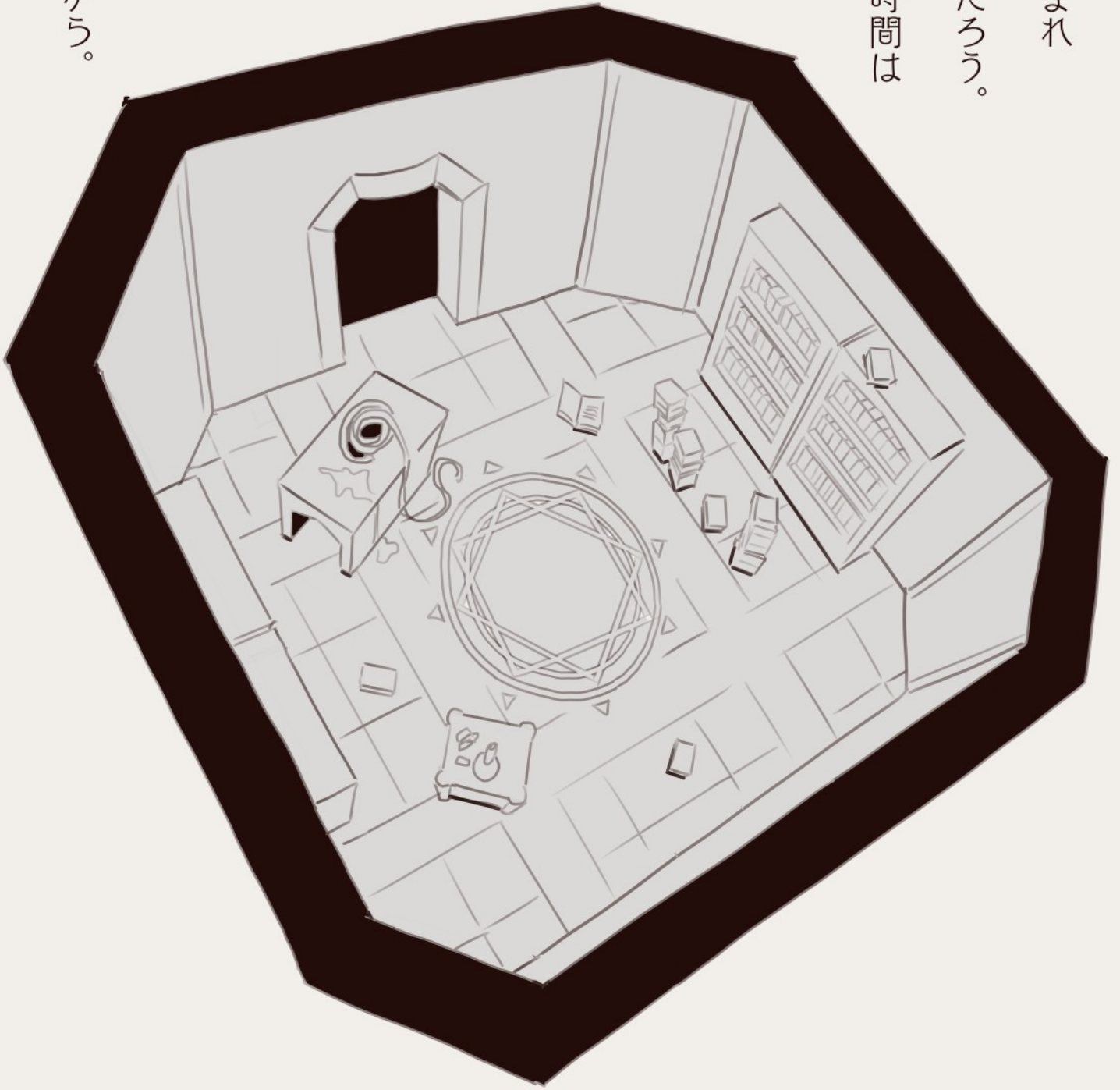


どこにもいなかった。



しばらくすると……
少年は再び光につつまれ
そして消えた。
元の世界に帰ったのだろう。
こうして
長くも短くも思える時間は
終わった。

疲れ果てた私たちは
片付けすら
することなく
その一室を後にした。
帰りついた少年は
どうなるのだろうか。
この一件は
発覚するのだろうか。
そんな不安を抱えながら。





あれから。
私たちは普段通りの
日常に戻った。

巻物は消え
少年も消え
あの日の痕跡は
どこにも
なくなった。



時々。私は離れた席にいるアリシアの顔を覗く。





彼女の瞳の中には確かに

ふたりの秘密の思い出が見える。

魔法で召喚した
男の子を
犯しちやおう計画

終

次ページ：おまけ

露見しないことが多いが
魔法学校では自慰行為に
野生のスライムを利用する生徒が
一定数存在する。



やり方は簡単なもので、まず
スライムから抽出した
フェロモンを性器に塗布する。

そして生息地である沼地へ向かう。





あとは裸になりフェロモンの匂いを嗅がせるだけで
スライムは交尾の準備を始める。
(はっ)

彼らは雌雄同体であるが
生殖相手の位置がペニスに近い
場合は交合の際
オスとして振る舞うようになる。



魔物との性行為はどの地域でも
禁忌とされているが
多感な生徒らにとって
社会的抑圧から解放されること
は魅力的であり、その背徳性から
こうした変態的行為に及ぶのだと
考えられる。



男の子が触手に犯されるところが
見たかったので
授業で習った使い魔の呼び出し方で
触手を召喚してみました。

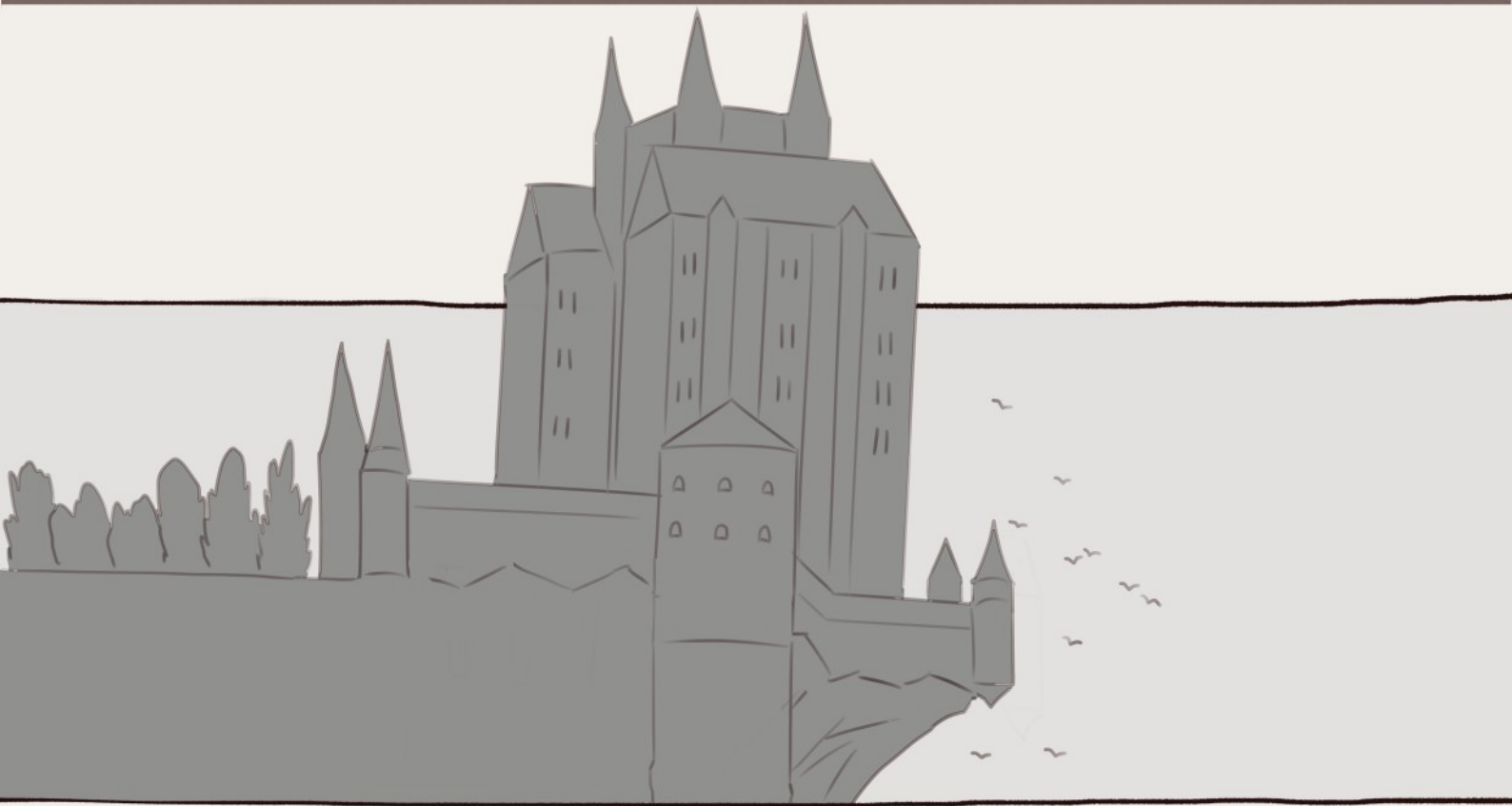


動けない状態で触手に犯されて
かわいい声を出して……

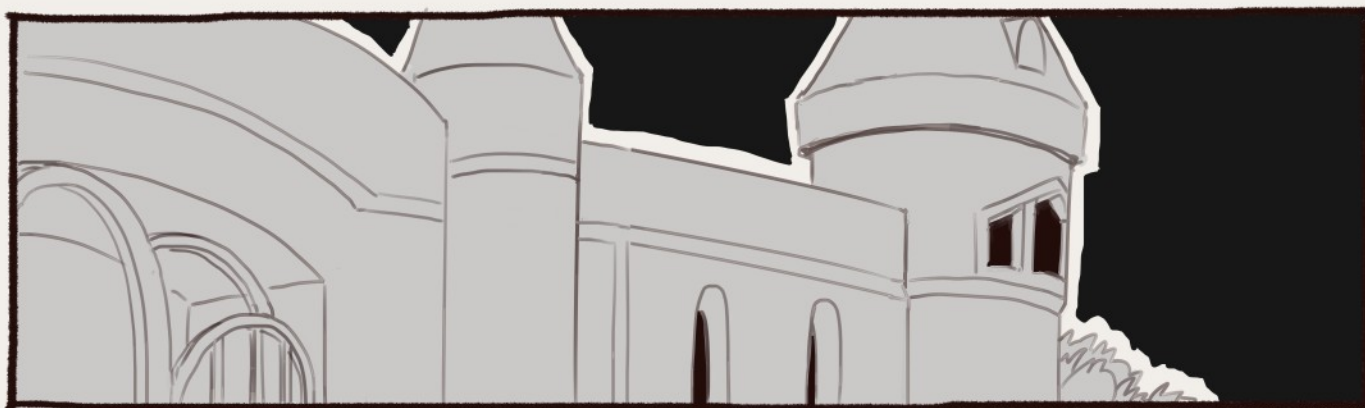


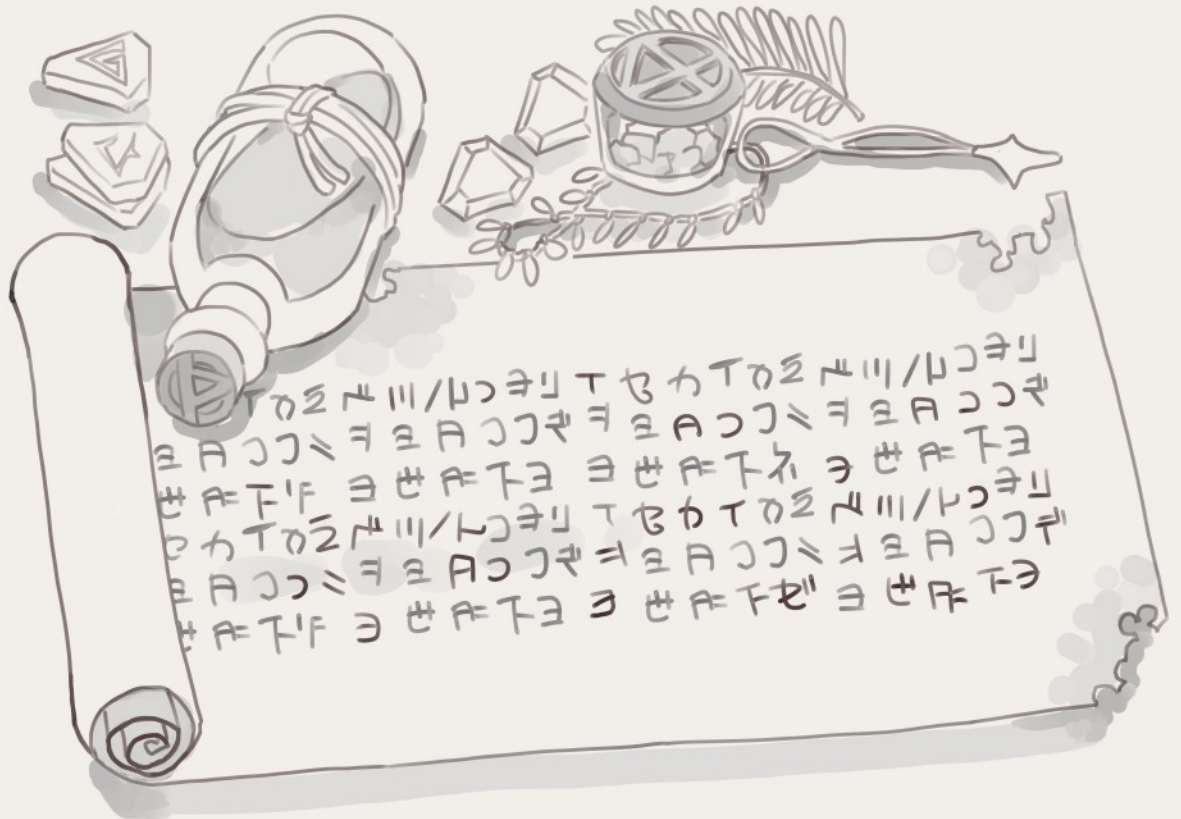
乳首とちんちんをいっぱい
吸われながら
たくさん射精してました♡



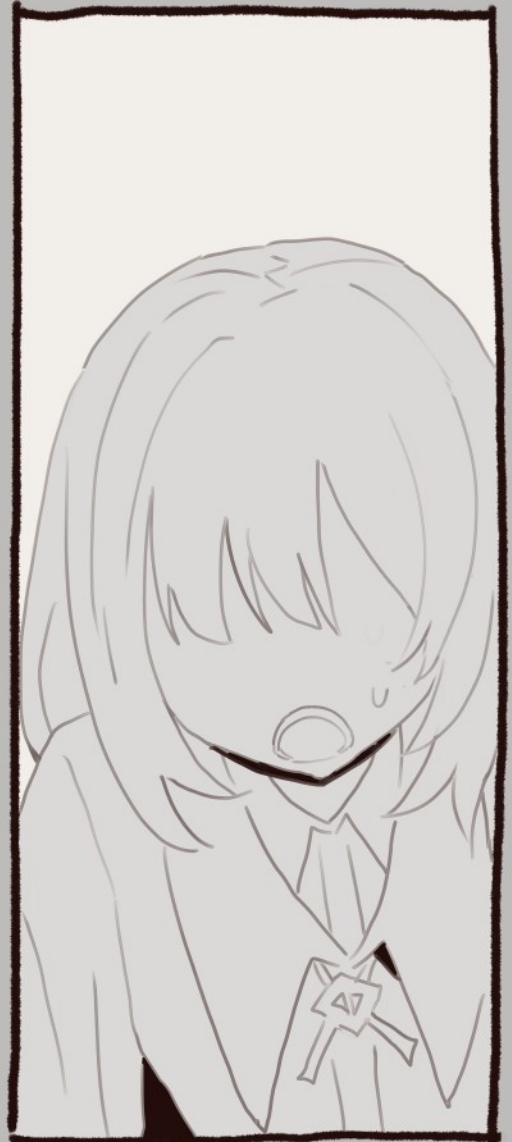
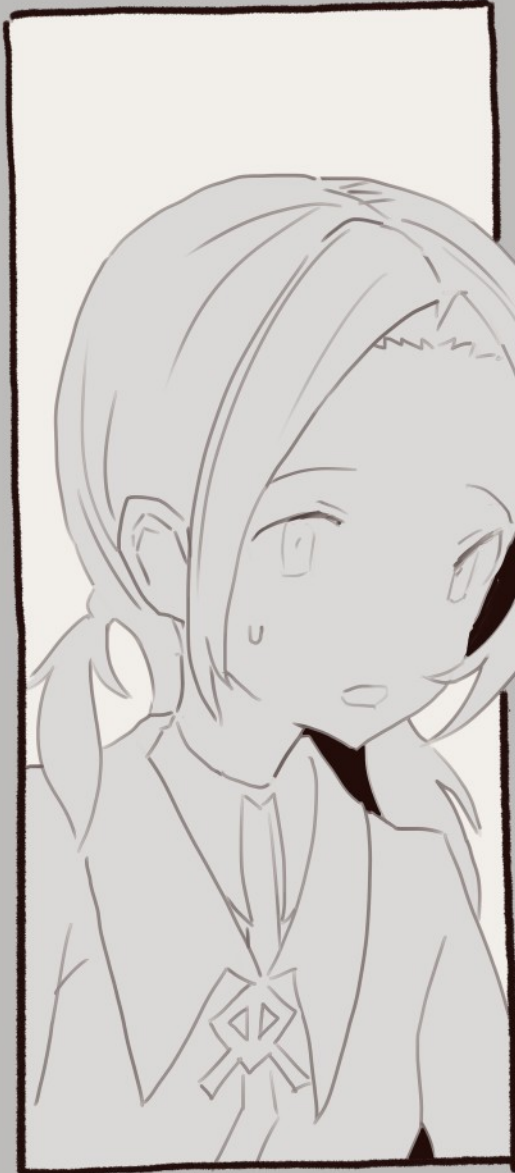


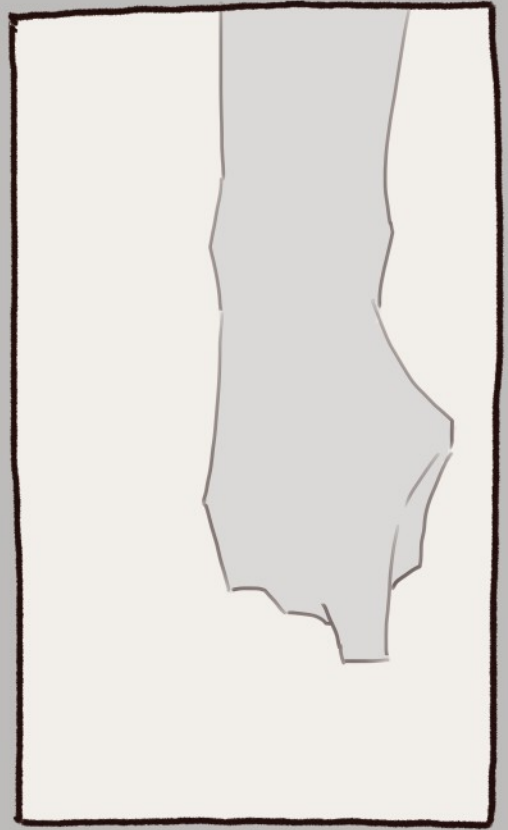






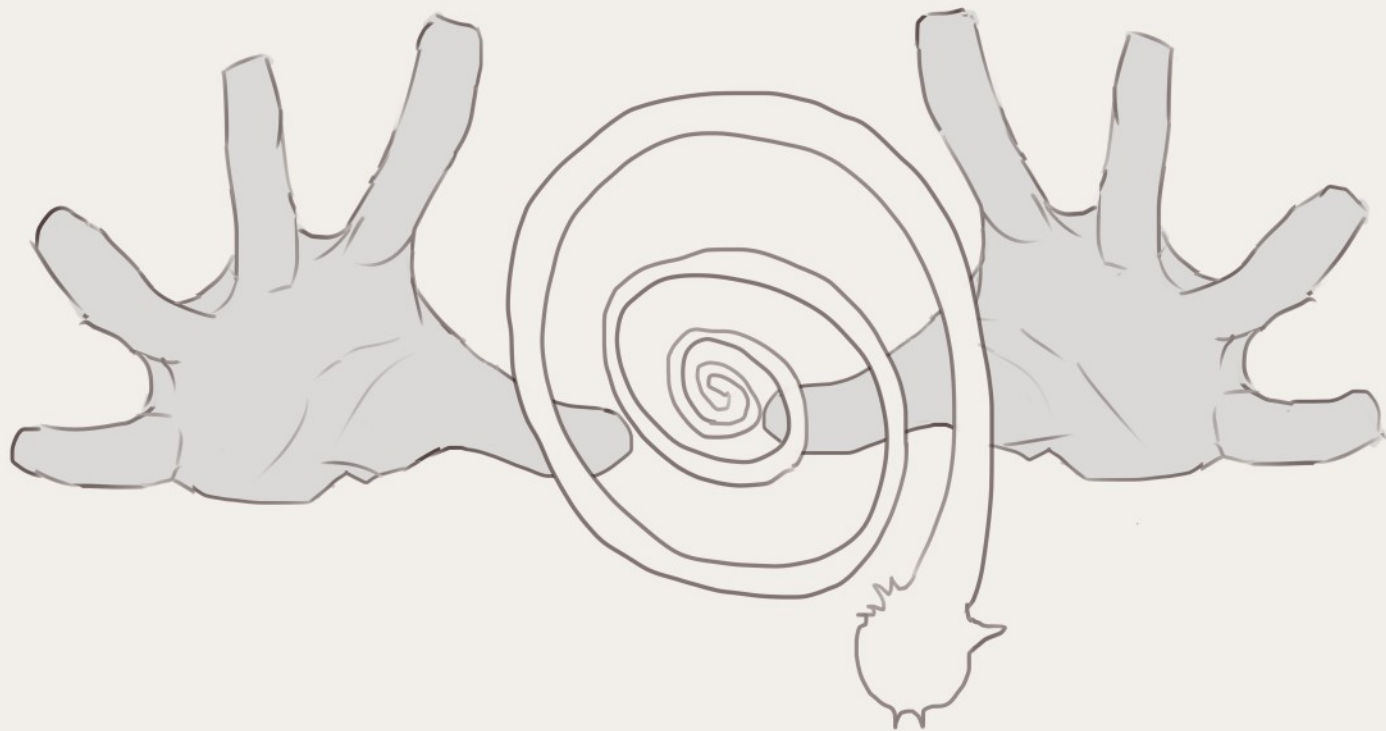


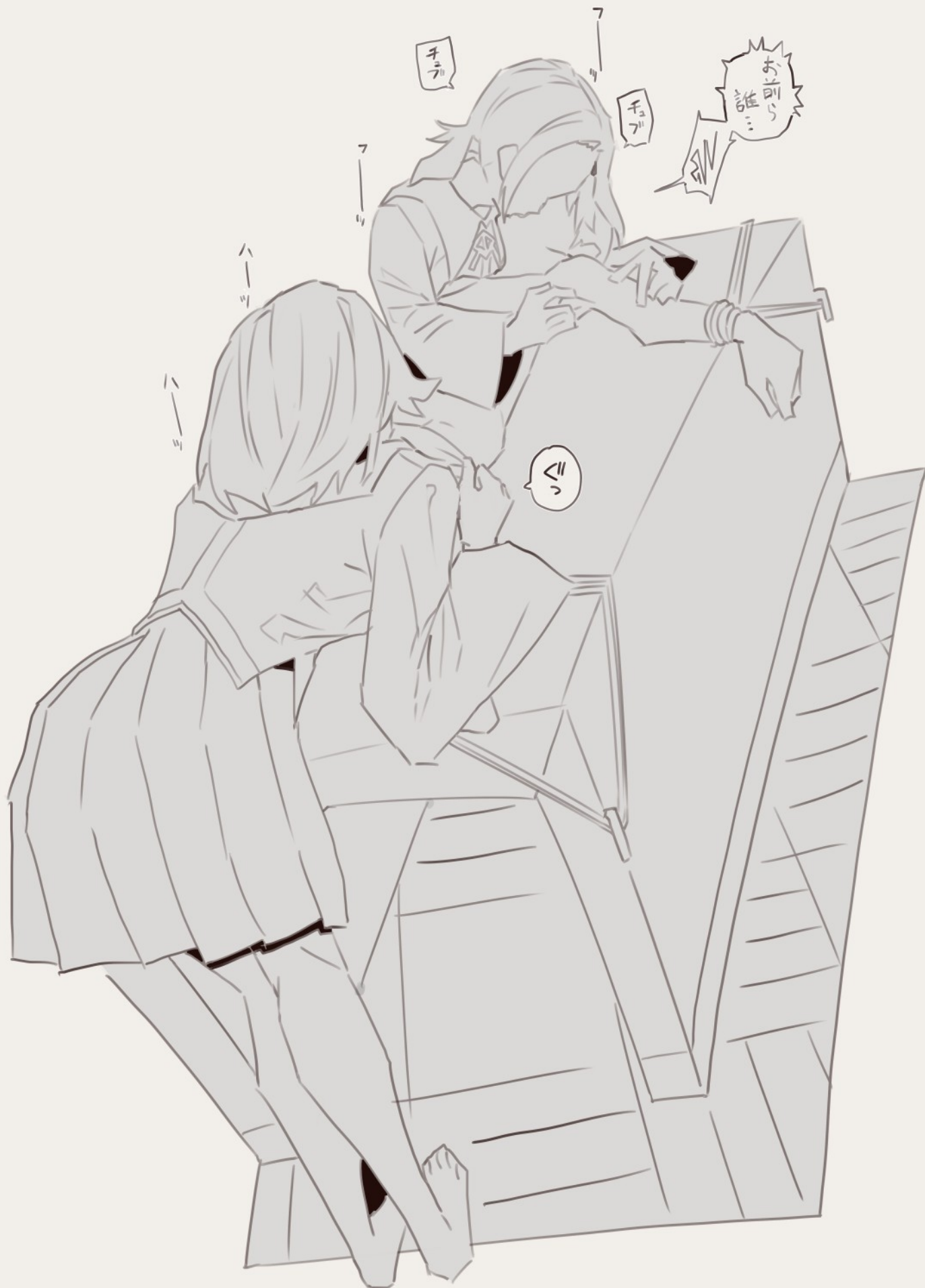


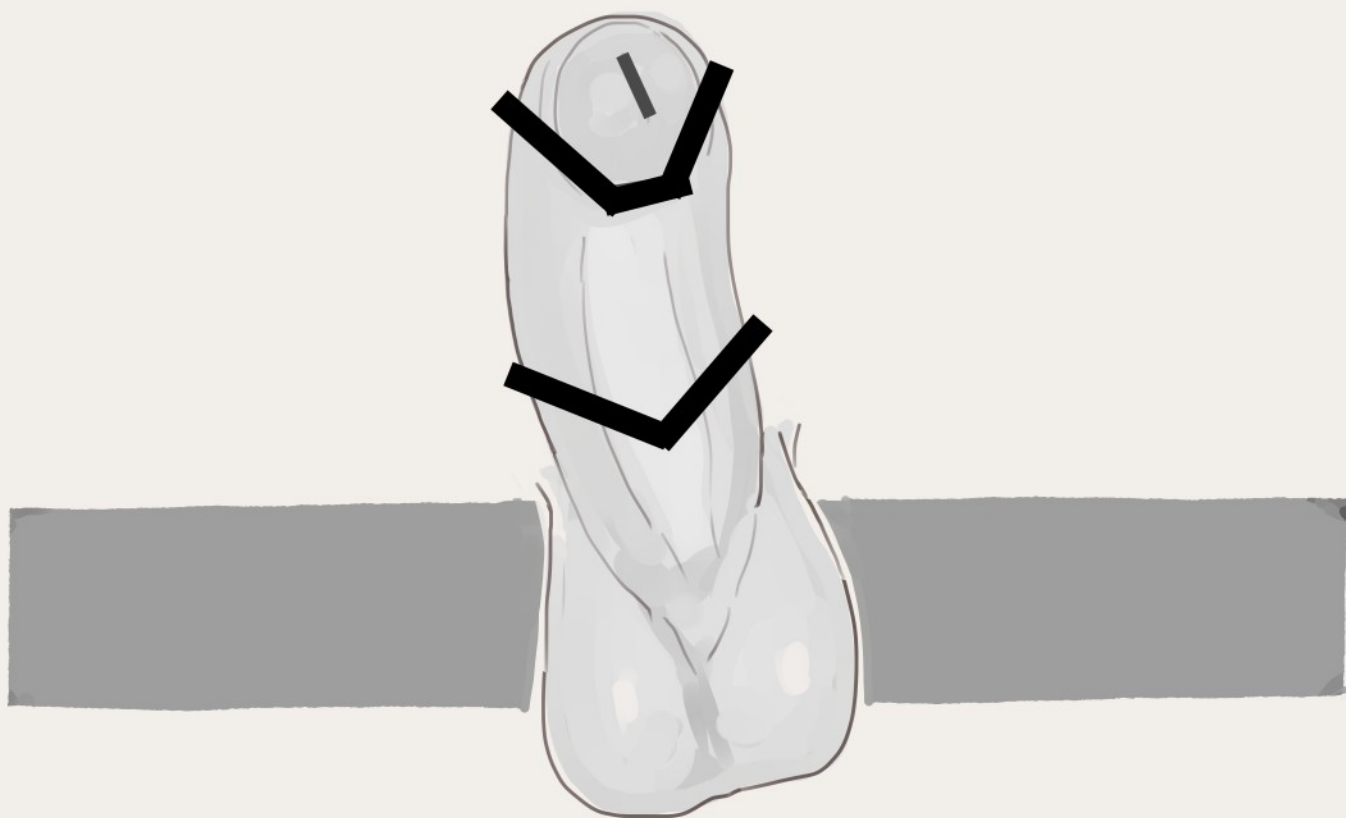












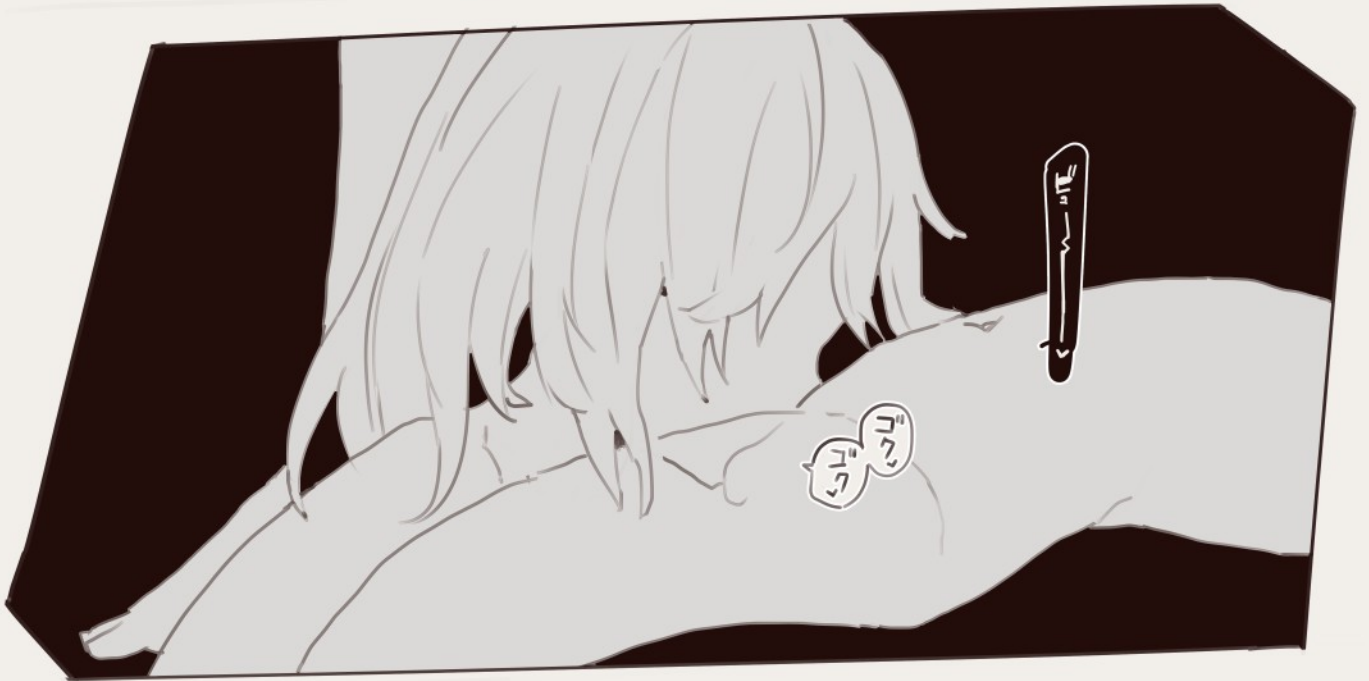
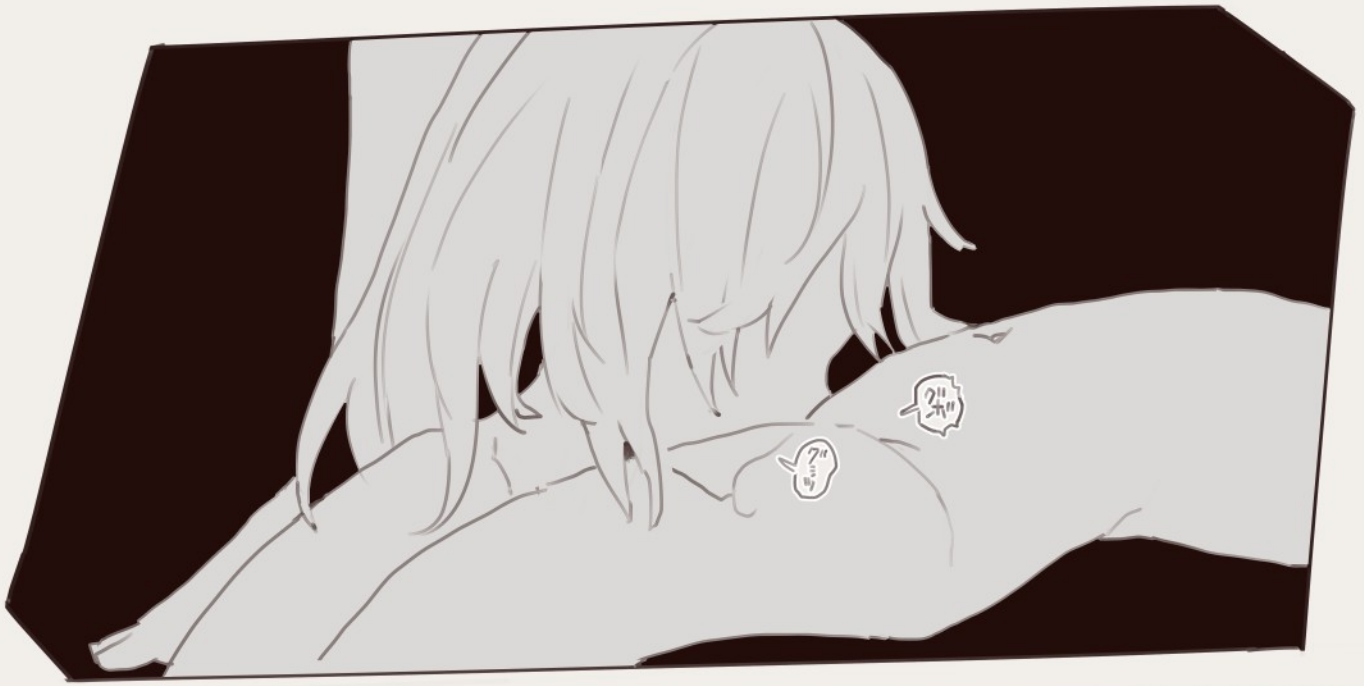


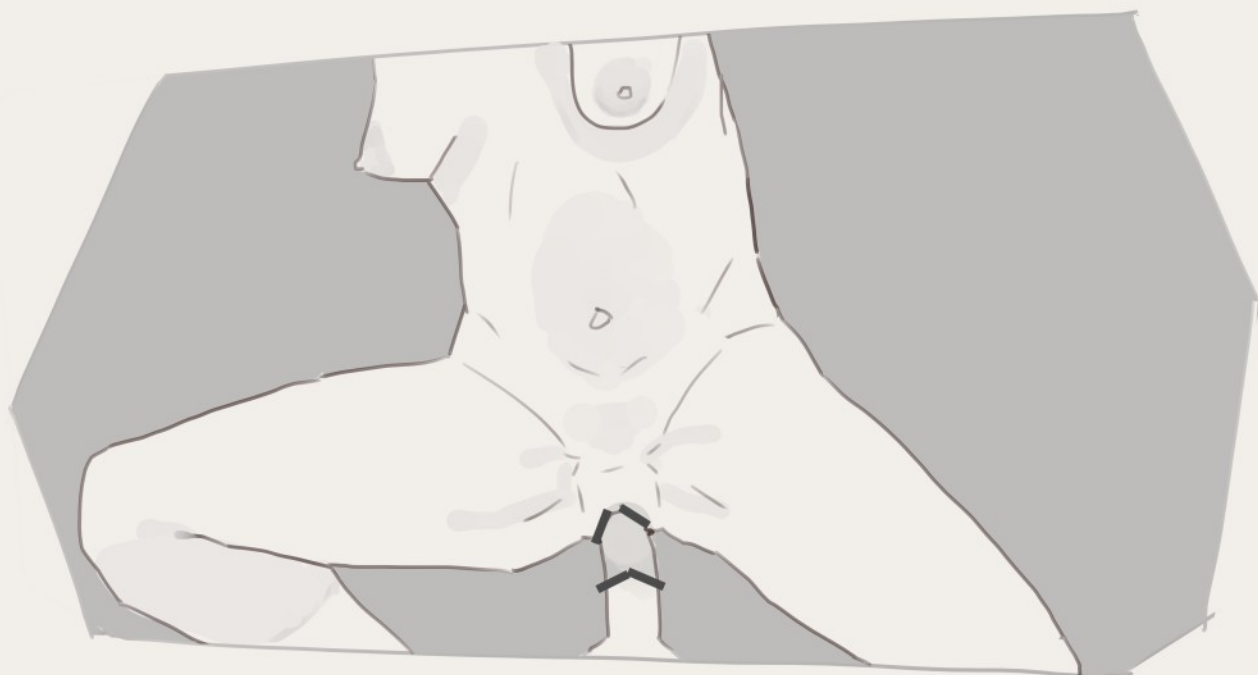




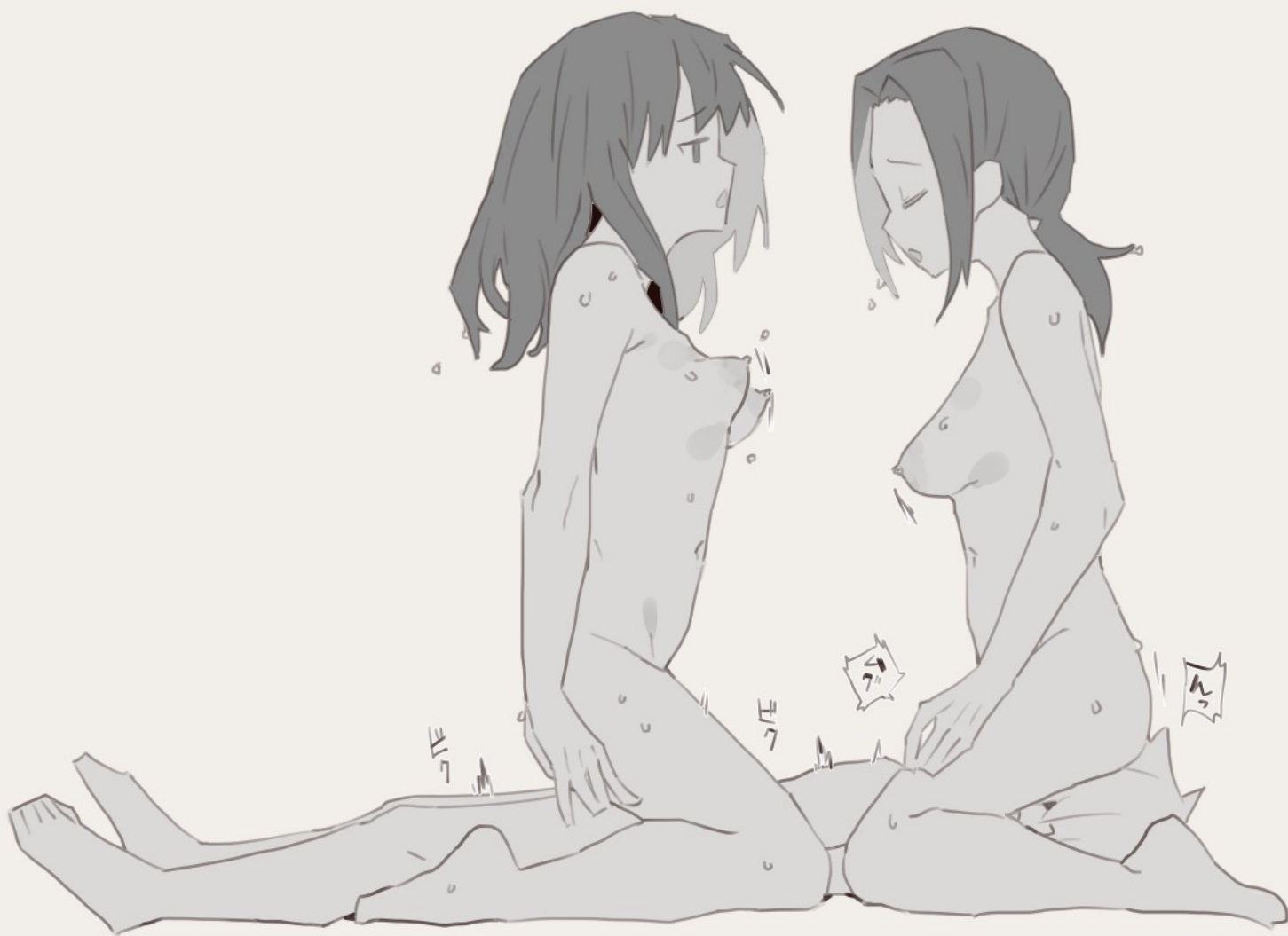




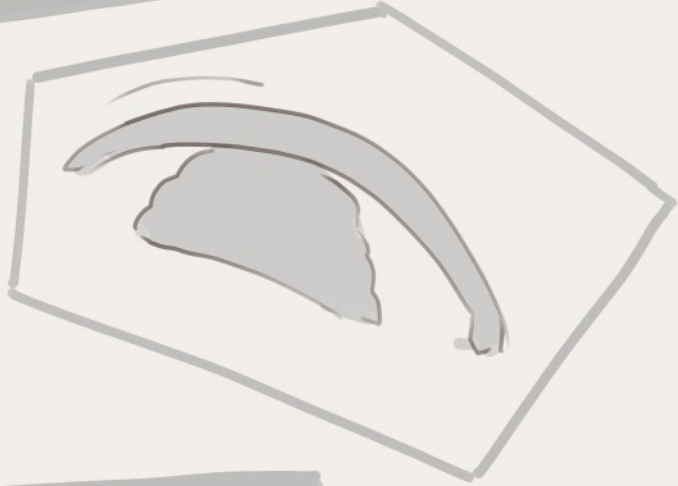


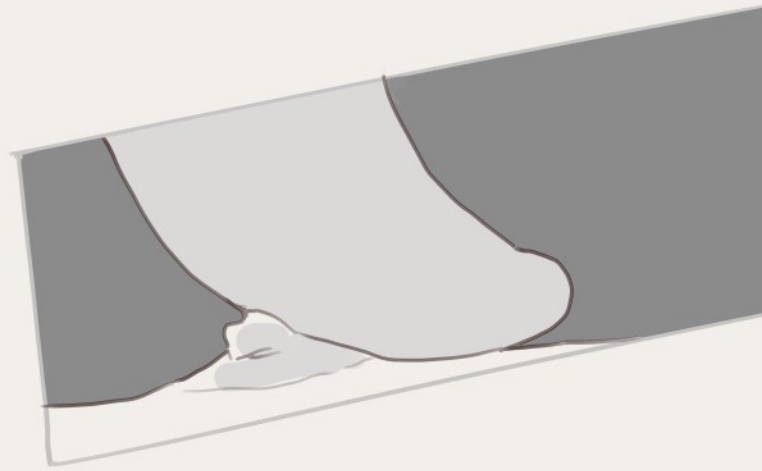
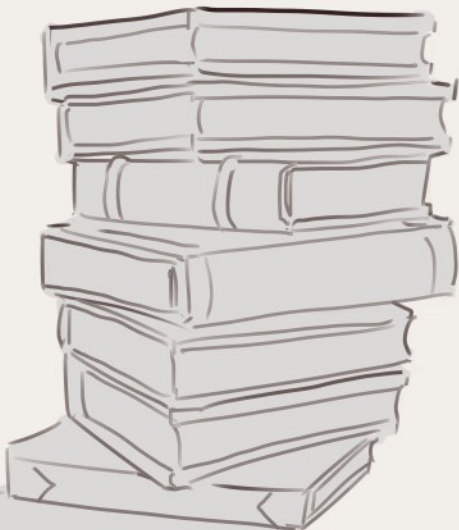


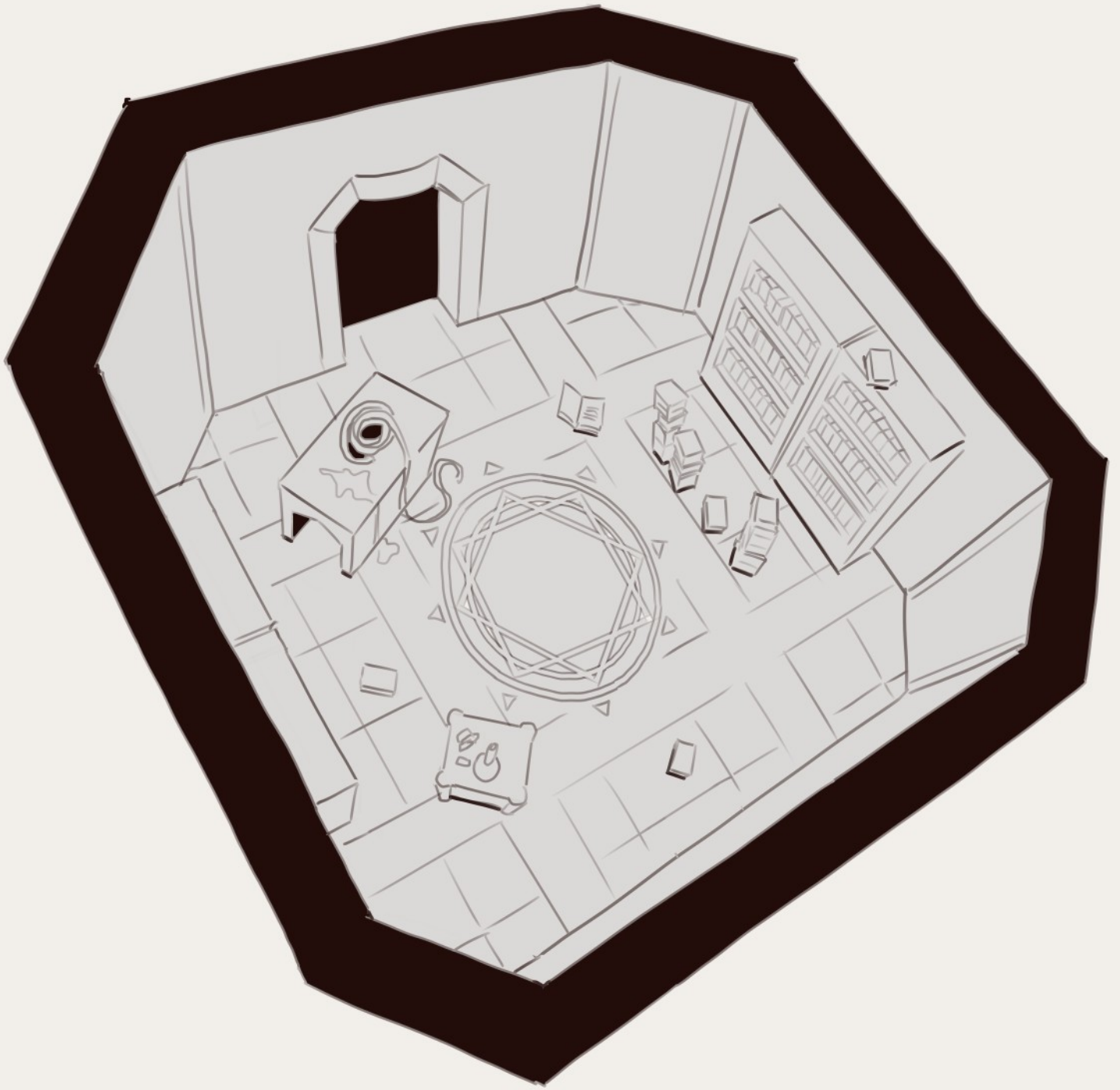
















魔法で召喚した
男の子を
犯しちやおう計画

終

次ページ：おまけ





